



山ぼうし

— 友愛・協調・責任 —

山ぼうしは「立志の樹」といわれ正門脇の「山ぼうし小庭園」には『花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし』の碑(初代PTA会長の盛合聰氏揮毫)がある。

宮古工業高等学校校報 第4号 2016.7.4

梅雨の季節

今年は入梅後にしばしば雨が降り、梅雨らしい日々です。健康管理に一層留意しましょう。

○防災避難訓練(津波)を実施



5月19日(金)の防災避難訓練は、5年前の3.11を教訓に、大地震発生とその後の津波警報発令を想定して行いました。

今回、新たな試みとして、けが人を担架で運ぶ訓練も実施しました。

その結果、通常の避難より3分間余計に時間がかかることがわかり、より効率的な移動手段について検討していきます。



○芸術鑑賞は「学校寄席」

6月22日(水)宮古市民文化会館で学校寄席を開催し、落語を三題と、大小数種類の独楽(コマ)を使う楽しい芸「曲独楽」を鑑賞しました。師匠方の味わい深い話芸に引き込まれ、大いに笑い拍手をし、心豊かな時間を過ごすことができました。

岩手県出身の桂枝太郎師匠による噺「アンケートの行方」は、父と子の、職場と学校で配布されたアンケートを取り違える騒動を描いた新作落語で、お笑いコンビのサンドウィッチマンがコントでもネタにしている演目ですね。



桂枝太郎師匠の色紙

出演者(出演順・敬称略)

桂枝太郎(落語)、桂文治(落語) ~中入り~
三増紋之助(江戸曲独楽)、春風亭柳橋(落語)

生徒の感想は、本校図書委員会発行の「読書三昧」第3号をご覧ください。

○第1回学校評議員会の報告

6月24日(金)に学校評議員5名の出席を得て開催しました。今回は本年度の学校経営計画を説明し、意見、感想等をいただきました。

<主な意見>

- ・就職は好調であるから、今後は途中離職を防ぐ取組が重要。(本校出身者の離職率:3年後で2割強)
- ・高校再編計画での宮工・宮商の統合イメージがつかめない。(校舎制とし、現在の施設設備を活用)
- ・「授業が分かる」割合の数値目標は生徒自ら設定しているか。(アクティブな活動を取り入れるなど分かる授業の実践によって目標達成を図ろうとしている)
- ・学校ホームページがリニューアルし見やすい。
- ・自己評価結果が向上してきており、今後は、さらに保護者を巻き込んだ活動を期待する。
- ・就職した後、新たな資格の取得に消極的な者が見受けられるので前向きな意識付けを願う。
- ・クリーン大作戦は中学校でも復興教育の一環として参加している。清掃区域を河川敷に戻したことに意味がある。雨天中止は残念であった。

○須崎工業高校生が来校

6月25日(土)、高知県立須崎工業高等学校の生徒4名、先生2名の計6名の皆さんが本校を訪問し、津波模型班の生徒と交流しました。

須崎工業高校では、今後、発生が予想される南海トラフ地震に備え、工業高校の特色を生かしたものづくりで、実際に使用できる防災設備を製作するなど、地域とともに防災実践力を高める活動に取り組んでいます。以前、防災コンテストで共に入賞したことを機に、須崎工業高校と本校との交流を計画しました。

今回は、昨年度の津波模型班が製作した「四国・須崎湾周辺模型」の最終確認と技術交流のため来校したものです。今月下旬には、この津波模型を須崎工業高校に送り、現地で実演会を行った後、寄贈することになっています。



(左から)本校津波模型班と、来校した須崎工業高校の生徒の皆さん

○教育実習生から 宮工生へのメッセージ

6月15日(水)～28日(火)の2週間にわたり、日本工業大学の情報工学科に在籍する岩澤芽惟さんと、創造システム工学科に在籍する大洞知也さんの2名が、本校で教育実習を行いました。

お二人が大学で学んでいる専門分野から、今回は電気電子科の電気基礎の授業を中心に実習を行いました。そのほか、校内球技大会や部活動等においても生徒たちと積極的に交流し、熱心に指導していただきました。大学卒業後は、是非、岩手の工業高校の教員になり、活躍してほしいと願っています。

今回の教育実習を終えるに当たり、お二人から本校の生徒たちにメッセージを寄せていただきましたのでご紹介します。



教育実習を終えて

岩澤 芽惟

私は、普通科を卒業し、現在、日本工業大学で情報工学を学んでいます。

大学に入り感じたことが、普通科から工業大学に入ると専門知識が乏しいため、講義についていくのが大変でした。しかし、工業を学んで入った人は専門知識があるため、高い技術で研究を進めています。高校のときから専門の知識・技術を磨いている、勉強していることはすごいことだと思います。このような恵まれた環境で勉強ができることに自信を持ち感謝し、勉強してください。応援しています。

2週間という短い間でしたが、たくさんの方のサポートのおかげで、たくさんのことを勉強させていただきました。本当にありがとうございました。



教育実習を終えて

大洞 知也

私は平成25年3月に宮古工業高校電気電子科を卒業し、現在は日本工業大学の創造システム工学科で学んでいます。高校生当時は気の合う仲間

たちと勉学や部活にと切磋琢磨しながら励んでいました。その思い出が詰まった母校に今度は教える立場として戻ってきた時は、生徒だった頃と景色が全く違って見え、教師という仕事の大変さや楽しさ、やりがいなどの様々な事を学び、感じ、そして考えた2週間になりました。この教育実習は私の人生の財産であり宝となり、一生忘れることのできない大切な経験となりました。

高校を卒業すれば進学でも就職でも「自己責任」が大きくなります。それはつまり「社会人になる」、ということです。



私は大学生活の中で、とても大切だと思ったことや、高校時代にやっておけばよかったと後悔した事があります。そのうち、重要だと思う2つをこの機会を通して宮工生の皆さんに伝えたいと思います。就職志望の生徒の皆さんも参考になると思いますので読んでいただければ幸いです。1つ目は“挨拶”です。社会人になれば出身や年齢は勿論、性格や価値観が違う人、時には人種さえも違う人たちとも関わっていかねばなりません。その時、最初に交わす言葉が挨拶なのです。挨拶はコミュニケーションを築く最初の一步です。宮工生の皆さんはとても良くできていると思いますので、その調子で頑張ってください。2つ目は“資格取得”です。大学や働きながらでも資格を取得できると言われがちですがそれはとても大変で辛いことです。時間が無いということもありますが、一番感じることは教えてくれる人が身近にいないため、独学で勉強しなければならないということです。しかし、高校なら話は別です。宮古工業高校の先生方は優しく的確に丁寧に教えてくれます。この機会を逃す手はありません。就職してほかの人達よりもリードして仕事を始められるように、先生方から教えられながら資格取得に励んでもらえればと思います。

最後に、教育実習生として受け入れてくださった宮古工業高校の教職員の皆様、そして拙い授業を熱心に聞き入ってくれた電気電子科2年生の皆さん、本当にありがとうございました。これからも宮古工業高校のさらなる発展を祈っています。2週間、大変お世話になりました。

編集後記

6月23日(木)「鮭の町復興クリーン大作戦」は、24日(金)の予備日を含め雨天中止としました。この取組は津軽石地区の4校の小中高生と教職員、地域の方々が参加する恒例行事です。震災後は通学路を清掃していましたが、今年から津軽石川原清掃を復活することにし、山田宮古道路の工事業者の方々の協力で、事前に草刈りを済ませていましたので、中止は大変残念でした。この行事は、来年度以降も継続していきます。(及川)